

## 追 悼



阿部 裕 先生 御遺影  
(大正11年9月26日～平成29年4月27日没)

## 阿部 裕先生を偲んで

本学会名誉会員・大阪大学名誉教授阿部 裕先生は平成 29 年 4 月 27 日老衰のため享年 96 歳にて逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

阿部先生は大正 11 年 9 月 26 日兵庫県西宮市にお生まれになり、旧制大阪府立浪速高等学校尋常科・高等科を経て、大阪帝国大学医学部を昭和 20 年 9 月に卒業され、直ちに大学院特別研究生に採用されました。以後の経歴などは次の通りです。

### <経歴関係>

- 昭和 25 年 9 月 大阪大学大学院特別研究生修了, 医学博士
- 昭和 29 年 9 月 大阪大学医学部附属病院助手(中央臨床検査部)
- 昭和 35 年 2 月 大阪大学医学部附属病院講師(同上)
- 昭和 37 年 2 月 大阪大学医学部附属病院助教授(同上)
- 昭和 40 年 7 月 大阪大学医学部教授(第一内科)
- 昭和 48 年 3 月～昭和 50 年 3 月 大阪大学医学部附属病院院長・大阪大学評議員
- 昭和 59 年 4 月 国立大阪病院院長(昭和 59 年 9 月まで大阪大学教授併任)
- 昭和 59 年 10 月 大阪大学名誉教授
- 平成 元年 4 月 大阪労災病院院長, 国立大阪病院名誉院長
- 平成 7 年 4 月 大阪労災病院名誉院長

<学会関係>

昭和 42 年 9 月～昭和 63 年 10 月 日本腎臓学会理事  
 昭和 50 年 12 月 第 18 回日本腎臓学会学術総会総会長  
 昭和 58 年 4 月 第 21 回日本医学会総会準備委員長，第 80 回日本内科学会会頭  
 昭和 60 年 4 月～昭和 63 年 10 月 日本腎臓学会理事長  
 昭和 62 年 10 月 第 15 回日本老年学会会長  
 平成 元年 5 月 第 64 回日本医科器械学会(現：日本医療機器学会)大会会長  
 平成 2 年 7 月 第 11 回国際腎臓学会副会長  
 平成 3 年 7 月 第 16 回国際医用生体工学会議，第 9 回国際医学物理会議会長 他多数

<学会役員関係>

終身会員 International Federation for Medical and Biological Engineering  
 功労会員 日本内科学会  
 名誉会員 日本腎臓学会，日本循環器学会，日本エム・イー学会，日本臨床病理学会，日本糖尿病学会，日本磁気共鳴学会，日本レーザー医学会 他多数

<社会的活動関係>

文部省学術審議会専門委員，文部省統計数理研究所評議会評議員，厚生省医師試験審議会委員，厚生省国立循環器病センター設立委員会委員，厚生省医療情報システム検討会委員，日本学術会議会員，日本学術会議心臓血管連絡委員 他多数

<受賞>

昭和 43 年 Bälz 賞，昭和 53 年 日本エム・イー学会賞，昭和 55 年 腎研究会学術奨励賞，昭和 57 年 日本エム・イー学会賞，平成 4 年 11 月 武田医学賞，平成 5 年 4 月 勲二等旭日重光章叙勲，平成 5 年 5 月 日本糖尿病学会坂口賞，平成 23 年 6 月 日本腎臓学会上田賞 他多数

先生は以上の多数の要職と受賞歴がありますが，日本腎臓学会では，昭和 35 年 第 3 回学術総会 事務局(総会長 吉田常雄教授)，昭和 42 年～63 年 理事，昭和 50 年 第 18 回学術総会 総会長，昭和 60 年～63 年 理事長，平成 2 年 第 11 回国際腎臓学会 副会長を務められ，腎臓学会の発展に寄与されました。特に学会の民主的な運営を目指したさまざまな改革を図られ，法人化への礎を築かれたことは特筆すべきと思います。以上の功績により平成 23 年第 1 回上田賞を授与されています。

先生の腎臓学研究は昭和 29 年阪大病院に全国で初めて臨床検査部が設置され，臨床検査部助手として，第 1 内科腎臓研究班主任に就任された時に始まります。先生は数学，物理学がお好きと承っていますが，標準的クリアランス法の結果を数理的に検討し，短時間で被検者に負担の少ない 1 回静注 GFR 測定法，RPF 測定法などを確立し，腎機能検査の一般化・普及に貢献され，検査値の数理的分析，パターン認識を研究されました。先生は，後に clinical cybernetics の概念，計測と予測の科学を提唱され，ネフローゼ症候群のステロイド効果の判別関数による予測，慢性腎炎患者の予後予測などを研究されました。私は昭和

34年医学科4年次に大阪大学医学部で開講された臨床検査医学での先生の論理明快な講義に惹かれ、インターン修了後、第1内科腎臓研究室に入り、大学院に入学しました。私が強く記憶するのは、先生が昭和40年7月第1内科教授に就任されたときに行われた教室改革です。当時の第1内科は7研究班、120人を超える医局員が居ました。改革の例を挙げると

1. 総務：総務、診療、研究、教育の委員会を置き、医局は企画室に、医局会は教室会議に改め、教授出席の委員長会議、研究班主任会議を開催する等。
2. 診療：教授回診は、各グループ病棟主任のみ同行し、担当患者を説明する。外来に医師の診療マネージャーを置き、新患の診療担当医の選定、患者の相談・苦情処理に当たらせる。病棟主治医に代理医を置き、相互に密に連絡すること等。
3. 研究：情報科学研究班を創設し(主任 古川俊之助手、後東京大学教授)、医工提携を実現し(工学部情報工学講座と助手を相互交換)、博士学位取得を目的としない研究を行う教授研究員制度を創設(昭和41年度の6人中5人が、後大阪大学・他学教授に就任)等。
4. 教育：授業項目を委員会で設定し、専門性を高め、関係助手に積極的に講義させる等。

これらは現在でもなお、臨床医学の運営、教育・研究上解決さるべき問題で、約50年前に問題を的確に把握し、改革を実行された先生の慧眼には敬服の他はありません。以上より、先生は論理的で冷たい人物と思われがちですが、阿部先生の下、私が病棟主任、研究室主任を務めた経験からは、人間を尊重される、温かい、大きな先生でした。それは、回診時の患者、家族に掛けられる温かい言葉、社会的弱者への配慮などに表れていました。症例報告は尊重されましたが、必ず文献検索や複数例の収集後、統計的に処理せよとの指示でした。研究面では、研究方針決定後は方向性の確認が主で細部は研究班主任などに任せられ、他人の模倣を強く戒められました。研究方針、人事などのお話は1対1で、充分時間をとられました。「大人は和して同ぜず。小人は同じて和せず」、「組織の運営に好き嫌いは不可」の文言を好まれましたが、私が第1内科を離れた後、管理業務に就いたときには、先生から教わったこの言葉を常に想起・実行し、大過なく務めることができました。

先生は大阪大学退官後、国立大阪病院長、その後、大阪労災病院長を務められました。この間およびご退職後も第1内科同窓会に元気出席され、次第に江戸時代後期の大阪の医学の歴史に関心を深められていました。平成16年の阪大腎臓研究室創立50周年記念会の際もお元気でしたが、数年前より体調を崩されていました。平成27年10月の腎臓内科学教室開講時には書面でお祝いの言葉をいただくことができ、先生にこのお知らせができたことは門下生一同の喜びでした。

先生、安らかに眠り下さい。

折田義正

日本腎臓学会名誉会員、大阪大学名誉教授、滋慶医療科学大学院大学特任教授